

28号 平成19(2007)年3月15日

2月21日のJR西日本幹部との交渉の場で、一人の遺族が「天下り役員らに直接説明を聞きたい、話し合いの場に出てきてもらいたい」と、土下座までして頼んだにもかかわらず、垣内前社長らは、耳を傾げるどころか、この申し出を一方的に断り、退席しようとしたことについては、ネットワークにも問い合わせが相次ぎました。2月1日の事故調・意見聴取会での丸尾副社長の「日勤教育は有効だった」「ダイヤに無理はなかった」「事故原因はわからない」などの公述とも併せ、2005年6月の宝塚ホテルの説明会で垣内社長が言った「100%責任」「誠心誠意の対応」という言葉が今更ながら空虚に映ります。不祥事を起こした企業の責任を十分に自覚し、被害者の立場をよくよく理解して、私たちの声に耳を傾けることが、JR西が真の安全を取り戻す第一歩ではないでしょうか。

4月25日の午後1時～

## 追悼と安全のつどい2007について

JR福知山線列車事故から2年目の4月25日、午後1時～5時、昨年のように「追悼と安全のつどい2007」を検討しています。場所は、尼崎市のアルカイクホール・中ホール「オクト」です。入場は無料(電話06-6487-0810、阪神尼崎駅下車5分)

事故の被害者のみならず、ひろく鉄道の安全に関心のある市民に呼びかけて、昨年の「つどい」や先月のフォーラムと同様に、充実した内容の集会になるよう準備中です。お知り合いの方も誘ってくださってご参加ください。

内容は、第一部として遺族・負傷者の発言、第二部は、学者・著名人の方をお願いして講演などを考えています。

第一部ではなるべく多くの方々の声を集めたいのですが、当日会場に来られない方、発言はしたくないという方々は、同封した紙に『JR西日本に対して言いたい私のひとこと』を書いて、ネットワークの事務局までファックスされるか、メールをお寄せください。番号・アドレスはお送りする封筒の表にあります。

## 3月例会のご案内

2007年3月18日(日) 13時開場

13時15分開始 16時30分終了

場所「宝塚ソリオ2」4階

0797-86-4006 阪急宝塚駅すぐ

例会終了後に、弁護士・税理士・司法書士・カウンセラーに個別の相談もできます。

小さなお子さんたちの保育室を設置し、ボランティアの方が例会中の保育を担当します。子どもさんをお連れの方は、なるべく事前にお子さんの年齢と人数を事務局までご連絡ください。

### 今後の予定

4月例会は4月15日、5月は20日、場所はいつもの宝塚「ソリオ2」です。

### 分科会は

3月24日(土)13:00～「説明責任」

三田駅前キッピーモール6F 第3会議室

4月1日(日)13:00～「二次被害」

同日 15:00～「人事問題」

サンビオラー番館3F

宝塚国際・文化センター会議室

「思いを語る会」は4月7日(土)12:30～

2月21日の面会時に「退任役員人事問題」についてもう一度考えてみるという返事があり、それに対するJR西日本からの正式回答

#### 4・25 ネットワーク

人事問題分科会の皆様へ

福知山線列車事故により皆様方のかげがえのない大切なご家族様のお命を奪い、改めましてお詫び申し上げます。

先日は夜遅くまで皆様方の悲痛な思いや弊社に対する厳しいご指摘を承り、皆様方のお悲しみやお苦しみの深さを改めて重く受け止めさせていただきました。

その後、弊社としてもどのようなことをさせていただけるかについて鋭意検討いたしました。

弊社としては、これまで申し上げておりますように、今回の事故を起こしたのは、あくまでJR西日本という会社であり、ご遺族様をはじめご被害者の方々への対応は会社として現職の役員等で精一杯対応させていただきたいと考えております。

事故当時、代表取締役の職にあった4人は、いずれも経営責任をとる形で代表取締役としての立場を辞することとした上で、会長であった南谷と社長であった垣内は当面ご遺族様をはじめとしたご被害者の方々に専らあたらせていただくこととして会社に残り、専務であった坂田と徳岡は任期途中でありますが、JR西日本を退任いたしました。

昨年の1月末をもって南谷と垣内はいずれも代表取締役会長、代表取締役社長の職を辞しましたが、引き続き坂田、徳岡両元専務のご遺族様等に対する思いを含めて、当面は事故当時の会社の代表者としての任を自覚し、ご遺族様等に直接対応させていただくことといたしました。

したがいまして、事故当時の代表取締役4人はそれぞれが経営責任を痛感しつつ、その身の処し方としては、南谷と垣内が、坂田、徳岡の両元専務のご遺族様等への思いなどを身をもって背負い、2人の思いを含めて、専らご遺族様等への対応にあたらせていただく

ことといたしました。なお、当時大阪支社長であった橋本も、直接現場を預かる立場としての責任をとり退任いたしました。両元専務に関する対応と同様に、南谷、垣内の両名で対応させていただくことといたしました。

ご遺族様におかれましては、退任3役員に直接会って話を聞かれないとの強いご要望を頂戴しているところですが、会社として精一杯対応させていただくという考え方の中で、現在も会社の中で専らご遺族様等への対応にあたらせていただいております両名が皆様方とお話しさせていただくことでご理解をいただきたくお願い申し上げる次第です。

そこで、弊社としては、次回改めて4・25 ネットワーク人事問題分科会の皆様とお話し合いの場を持たせていただくのであれば、事故当時の最高責任者であった南谷、垣内とご被害者対応本部の土屋、中村で対応させていただき、今回お問い合わせいただいております、当時の人事の考え方や、なぜ現職役員等で対応させていただくのかということ、また、他の3人の退任役員が事故にどう向き合っているのか、現在どのような思いでいるのかといったことについて、今回の退任役員に関するお問い合わせにお答えすべき立場である南谷と垣内が、責任をもって直接ご説明申し上げたいと考えております。

ご遺族様のご心情に思いをいたすと誠に心苦しく、申し訳ございませんが、坂田、徳岡及び橋本の退任3役員への面会の場を設けることについてはご容赦いただきたく、改めてお願い申し上げます。

具体的には、別途ご相談の上、調整させていただければと存じます。

平成19年3月6日

西日本旅客鉄道株式会社

取締役 垣内 剛

福知山線列車事故ご被害者対応本部長

土屋 隆一郎

福知山線列車事故ご被害者対応本部副本部長

中村 仁

## アメリカの友人から

### 追悼の詩集が届きました

31歳で亡くなったSさんは、海外での生活も長く外国の友人も多かったそうです。

このたび、サンフランシスコのお友達スティーブン・モールさんから、Sさんの遺族に宛て、英語と日本語の訳詩の詩集が送られてきました。

詩集を託されたモールさんの友人であるキエルト・ドイツさん（オランダ人のジャーナリスト）が、4月25日の集会の場で遺族の方に手渡したい、と言っておられます。

「2005年4月25日尼崎において、日本史上最悪の列車事故で私の友人S君が命を失った。この詩は彼とあの日この悲劇で亡くなった106人の被災者の方々に捧げる」と序文にあります。

下記のようにすばらしい詩ばかりです。

## ALONE

Who would have thought that today

You will give your heart away

You will never again leave Japan

Did you die alone?

一人

誰が想像したのだろうか

今日という日を

君は行ってしまった遠くへ

もう君は二度と出ることはない日本から

一人で逝ってしまったのかい？